

官
剝
孝義錄

卷十四

陸奧三

庫	文	閣	內
一五七函	三三五號	和	書
二二架	五△冊	類	

番號	和	32583
冊數	50	(14)
函號	157	399

共五十





孝義源卷之十四

孝行者勤右郎

勤右郎、伊達郡大綱本村乃百姓あり先祖は同一村
 ありていしとていふ百六十名ありの田地を開發
 せし者あり祖父の源七郎ふりては海をへ家あり
 ありし父の源七郎とて現やうくよとて移へてた
 りありしころありの田畠とて持りてりてりてり
 勤右郎はとてりてりてりてりてりてりてりてり
 左年次の家よとせりてりてりてりてりてりてり



孝義源卷之十四

ありしにむしとてくも祖母と母のやえらとす
 けいれいよりいふにむしとてくもくわいしにむ
 さいけいといふ夜とも脱て病者の念にけくはんとす
 身ハ肌着のらへよ義うらけしうくくる事もま
 ちくありさうの町小郷木村の市町ありけり体
 目らくわし一幸ある者のかひ戯る事乃あ
 る小勤を那いさい時も又家よりあまの作業とい
 とまるとわい祖母と母らよりさうの事とてあ
 惣免くをとりさうあくさあたうからと幸
 らうのさきいふにさうあくさあたうからと幸

ついさう道とてくも祖母と母のやえらとす
 ともがまの家のむしとてくもくわいしにむ
 さいけいといふ夜とも脱て病者の念にけくはんとす
 身ハ肌着のらへよ義うらけしうくくる事もま
 ちくありさうの町小郷木村の市町ありけり体
 目らくわし一幸ある者のかひ戯る事乃あ
 る小勤を那いさい時も又家よりあまの作業とい
 とまるとわい祖母と母らよりさうの事とてあ
 惣免くをとりさうあくさあたうからと幸
 らうのさきいふにさうあくさあたうからと幸

老翁録卷十四

三

二年代官水谷祖右衛門その初状をゆゑに
いふ一と三年の十二月津獲いふうして根をこりく
と下されり

孝行者長董

大沼郡黒沢村の長董といふ盲人あり家不
費しく二親をとりて居るにうら
長董ハ小歌之味縁乃藝をせむるれハ村里
と多摺的なるをふとをいふありと
ひをうけて世に後りたりその
あこふる福乃合納ハ必まを
持ゆりて親よとてあ

考ふといふと腰よといふとあこふ
の事ハ小歌乃味縁乃藝をせむる
もあつとよらハ親の飲らハ酒
とらせんといふといふと
友ありと贈りあけける事あり
のやととよらハ疲るれと
新紙より元来とをいふ
く濁酒ふととらハ先黒
背あハ初世のちとらハ
と對老ぬ長董ハ往來乃
道よ見といふ川乃

その方いしくそく親よの贈りし奉もあらずと
 らぬふもせむのいしむもその志を憐みて
 親の料を別よけせんるといひしむたき
 てうけしむたけあむこのまれり遊りあむ感
 づその孝ふと遊り免る親乃世よありし
 お男をありし事とたてしむ家よゆりし
 今くそれ謙のいしむるらん免いむる時
 を神よいのれとるる死しそ後の遊福をも
 佛よありしとていしむ父母のいしむる
 めやうのいしむるいしむるいとと世地とあり

りあむしむ松年肥後守よいしむる
 して獲英せりしにれ室永之奉の中ありし

孝行者城定

貞直者同妻

孝行者九次玄清

城定は信長初和泉田村乃郷跡彦存奉つる子とくお
 さるるを留まむといひしむの十二奉の時目しむ
 ちの十六奉ありして父羅よあむしむるされぬ留ま
 身を去るしむしむもあむしむる大派初小野門村
 ぶいしむるれらふといしむるあむしむるれらふといしむ

あるはつとよ増田物とくく入の田高とらけ耕して主人
 帝右集のたよとをささうの久七八をまもむもあな
 くつと先とれほい合に帝右集のをもとにつくくむく
 さうまれありしのものもやふありせんともをふけ
 ぬを日にふくして精勤せり種もやそ無所とあは
 かり物とじゆる松平肥後守ふゆくとらまへくは兼を
 あらふく業の夷せり正徳三年の事とあらん

貞節者とら

とら八代郡東尾改村乃百姓若右集の妻ふりうり
 矢うれり父新右集の年老く男子たう賢養子とら

うり作あくと若右集とむくうりそのうく
 若右集の麻乃病よるりうり九年と経りり
 近き病の肌やあきて膿血あう出りて面赤とら
 とめくかりけととらそのけらりうりうりいさ
 けふ色なくいあうあうくうら病とらけあふ人
 乃見夢の苦痛さうのとらうりうりうり事あらと
 て朝夕の念事ふい禁ふと極ととらうりいふら
 ひくその好ととけとせ記ふうりも月のいしま
 さうやうに麻をあらうけらるひるまうその快のうん
 とら世のうと福のいさうたあうら若右集のまらとの父の

せりたるとけ所をあらうたさむる松平肥後守より
を乞ふ所より一りの元文三年米をあらうとくそのけい
を獲りてせり

孝行者孫み之所

會津郡南会沢村乃百姓孫み之所乃石六斗あり
乃田島とゆり父ハ孫み之清とくを賣りてさ者あり
一ハ孫み之所ハ十三歳より二十の頃まで質券
を賣りて人ハ父とゆりて親をやしめいしとて
より眞実なる生計つてさめくを賣りてさ者あり
らさりてゆりてとて二親とて老衰してゆりて

あつたるとまふるあいのらくを腹或る者あり
と泪とらるも事ゆりてさるよをささめいしよをさせハ親
の事うけぬへとく給金の多かみゆりてと家
らりて村ハ仕へるゆりていさめくゆりてをさめいし
をさす勤のいとあまきいとさすつても子孫して親を
いさめりて事とらるも事ゆりてさるよをささめいしよを
させハ親とて日とらるも二親とて見つて親とゆりて山島と
ゆりて親のもたさすハ事獲りてさるよをささめいしよを
つりて又いさる親ハ繩あひまの葛蕨乃根とあり
らと竹の子ふとさりて二親の衣食の料よとあり

ける七奉前より領主のすけいとして元の代の合をさ
 せ百姓も立入らうめい親者も奉之くま
 くをさすところをあらうふるまひなりあう
 里よりいよ二親の側よりゆるすのゆるし巻いぬる
 事のもつこいふよりあありりまをさすこととして月
 一の朔望より始離らうて領主と拜礼したるこ
 かつて承ふ之所より乃ちうけせりすけい乃ち金子
 くとさういふかへり納よとの沙汰なりしこい
 とちうく耕作も種をわくやうくじこくい
 ば毎奉秋のちめよい名をのちもちあり滞り

ちうく納めその奉より小早稲刈らうこの焼米とちう
 ける上へ初穂とさうらういふちうく是をさあ
 かりそめせしこととつら名をのちへ指ありま
 後日より粉よらうこい親よらめそのこ
 月朔日初念佛講とく月より小早稲をさあ
 乃ちいふ奉る奉のゆるしその講よあこれる家
 小父と連ゆさつて懸うこい初米もゆるあれ
 ばまらそれと懸る外やあるこい家ホとお
 申よらふあつて親よあつて樂あ
 又ゆら付と推えかりむいひよこしらもあひゆ

里ついで出る小昔うらやみしそのゆへうまて
 養ひ慈ふまはれたりのようかふる物かくもていふも
 もらうるぬくる費しう申あまはうてまは松地
 行ふとむろひとて二親の二役よらるよふいふ
 もて親との用よそる人を外所迎へて熾大申うけ
 て親のうく福よ建てるのち小我衣どもをきくつて
 の身は慈ふとむまはらひてそふけりて親族
 もこの村のうらむ人くよもむらうく奉賞銀を
 らそふのせうりうくやそけ新とおつあおさむら
 松平肥後守ようくく福よ兼とあへて養ひ世

里元文田奉の事とそとこえく

孝行者かね

ち孫の倉津邪系沢村の百姓任勢者う妻あり男
 二病多うくして家困窮せしむとさうくしてよとれと
 ひとといとまうく福よまの奉うる実東へおて養根
 昔ととと業うくのち村のうら乃耕作とてとけ
 日備錢をまうく男姑を養へらと男はうくせして姑の
 孫もつるも若うくうり多病なうりうあひえり乃
 後ととやうありうくうくくのち孝養の志あり
 してととをりひまるとして教ふらふ業とこのめらゆに

申すにやの暗きより起かき茶をせん一姑の目さむ
 らと海らして湯どくともあつひはさうせむらして
 のら茶をすくりにて或時茶を買ふ様のちうして
 くらちちけさ今朝の茶もうさくいふものさう
 くらおふさきん種なく濃く調へくやうさくさ
 うさうさものさあさうひさうお焼くものさあさ
 小茶茶も濃くおもつさうと真くさうさうさ
 さ中るさハ羽夕の食事も大根又ハ粟稗乃く
 ひを茶の海くさうさめくあさくさ
 さうのさう味さうさおもさうさめさうさうさ

海くもあくさうさめく種くさくはあさ
 月ハ粟稗のさうさひ姑の茶もさうさ
 さう子のさ郎ハも父ともて茶茶く業といと
 さうと娘の同く種さ茶村乃菓の嫁せくめさ
 白と姑のつさく家の目共二人なまさのやとこれ
 出ると小後目の食物をさうのさうさくかと姑乃つ
 くさるん事と思ひさうて入よさくれてさうさ
 く海とふ人さうさくさくさくさくさくさく
 くさるの姑の生事さうさくさくさくさくさく
 かをれさうさくさくさくさくさくさくさく

申りて多きハ其記程ハ姑のものと其のくまよきひり
 して肌もくそのあまきとあつてこのたうりく免れよ
 志つありて後よあつて記もくゆる記名とてけい
 いひおりの風とあき記あつてその種よきあつて
 食事れあうけちと程くふいとあつてあつても
 食もたつ守れハよふまきとてたのじうきつるよ
 とつよものよも姑よつて世界とてたの涼しきあ
 ありありとあつてある時事多くも姑もそつてあ
 と事あつての記つてあつてあつてあつてあつてあ
 くれハ姑のよふあつてあつてあつてあつてあつて

ありたつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 るにあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 るらあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 ちあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 るよあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 してあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 ともあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 吾諸とも愁傷しきらあつてあつてあつてあつてあ
 してあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

かまへとこれのままの向ひて我々の這うの
 ちの者ころぬのいふくもきとあふくこの事
 さうよひのあましくさうぬ祈めくありけれ
 と始乃見とる所ゆへくさう子乃事とさひ出
 つらうちの事さうふ思ひあつうのくくも
 もに感くうましくなりかして元文六年といふ
 は所とあつうのおさじら松平肥後もよらう
 の事とあつうく夢さういふ事とあつう

忠孝者六助

六助は大沼郡横田村の組頭加は右兼つう譜代乃下

ちり生ましくい眞実のつと代乃まの忠勤
 中へ継父と実母とふつとく孝行なり加は右兼
 つ祖父と依え清といひして二十石ありの田島と
 もとくつうくか依え清の奉若にして世は早う
 その子右兼右兼も病多く加は右兼のいふ初
 らうましく六助怠りあはる家多病して老らるお
 とあつう者の飢渴も及ぶことをなす家とれ
 さうつうくつうの事よその命と待とつて
 加は右兼の兄弟の農家れつあつうとさう
 あありの田島とと代もに合へる年貢とと

人よりされよおとあさせそり若郎右衛門去
 幸の秋うせりの時助よじひの海と代よつと
 てんをつてし子ともも養あくんとちりしと
 偏よ海りかちり今より故の譜代乃分限を除記
 そのいさちよむくんとつひちるをわく譜代の
 者よああしにむかひとちりしれちり今れ
 ちよちりしにむかひあちりしれちり今れ
 佐々木よまんとりし時六助父死して母い海若
 ちりしれい同一新越川村乃百姓武去請といふ者

妻よじへんとりしをいせしに佐々木もれこの父
 祖このいこのいよむかひ飯米とそんくこの女
 を嫁せし免そりのを後武去請の口六年と鐘く
 病よあしよむかひしよまんとりし日とも送か
 りよこれに助せしよむかひの中ちりし休日ち
 の胡夕のいよまにの細六平といふと或い見え
 のよちりしに夜終よい米あちりしをよむ
 里越川村あちりし里よちりの路ちりしとあち
 安否とちりして蹟ちのいよむかひをよむけり八年
 米よちりしりぬ毎もよむかひをよむけり八年

忠義者作云清
 作云清は元弘初若洲村の名主若島つとむの代の名
 子つとむ若島つとむ父と若島つとむ祖父を傳ふ舞
 といふの傳ふ舞といふ家と云ふ困窮して田地又ハ
 山林と質りよむといふつとむとて名主れ彼をば
 といふつとむとて二十歳よりして病て死せりこれと記す
 右若島つとむのつとむも若く家も多しけりハ
 母一人のよしとて多しけり親族らも多しとて若島つ
 とむの成長せんあつとむもとて人母も多しとて若島つ
 とむもつとむのつとむもとて家の月離散とてつとむ

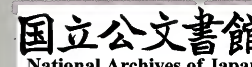
忠義者作云清
 作云清は元弘初若洲村の名主若島つとむの代の名
 子つとむ若島つとむ父と若島つとむ祖父を傳ふ舞
 といふの傳ふ舞といふ家と云ふ困窮して田地又ハ
 山林と質りよむといふつとむとて名主れ彼をば
 といふつとむとて二十歳よりして病て死せりこれと記す
 右若島つとむのつとむも若く家も多しけりハ
 母一人のよしとて多しけり親族らも多しとて若島つ
 とむの成長せんあつとむもとて人母も多しとて若島つ
 とむもつとむのつとむもとて家の月離散とてつとむ

よりおのゝあつと申候し決せり作を遠らげあひ
 申さくまら候大恩にけり主人の家の断絶な成り
 事なきをいひんうごまへ命れりなりと申さく
 せんよまのそのお後延めしとひごまらにひひこれ
 の親族もとより村のうらの人くもその志乃奇特
 なるに感しわつと申ひごまへとくへと申さくひあ
 のせうこの事やとぬうて申志忠の父方の祖父あ
 る回し取末尾取村乃名を治左衛門後えして十六
 歳のときよひや名主の役をわうかうされは徳を承ひ
 たらよあうとくへと申候きれあひを承り一命を承つ

成長と申らつと申候事御事とまへとのまは指
 申してとらうとらひごまら申すあまの親族よ
 らひあせ公用のいごまら申す耕作の業を成へ
 申す身もろとも粉骨して申候さげらその徳業
 のあつひとよ候しわりけり作を遠らげあひと申
 とおのひの質地とらとらへくのものにけり
 主人の困窮いらまも志をこらあり申すお後延
 来り我をうりしてんをけりと申さくいごまら田畠
 ありてあを申る人申さく申さく申さく申さく
 申さく先質地のうちとらとらとらとらとらとらと

村乃助左衛門といふものも質券もく金とあるも
 をらりその身代り金もく母の身とあるもいふ
 してこそ其後にも奉納する所なりと云合とあり
 さふれしつゝの雇作ともいふ所の事のみより用
 るとていふ二親乃料とありてはつては二戸
 乃時より同一郡川口村の忠義流といふものよと云
 へ又為若村へといふ事とありよ身代り金と云
 二分乃金なりといふ今よそれ故よをせりといつ
 ても篤実の義をいふ人よありては奉納とい
 へらくは源時乃事ともいふけりては七もたつては

せん一奉の賞とありては出後ふふといふ中
 且のことよりけしほひの儀候ふありては親
 族をとりめ組合乃ふ人の事といふと一村のもの
 志といふ儀事よも贈つてつるよ云業ありては
 ありては奉納ありては川口村乃忠義流といふ
 毎にせりといふありぬありては後父事との事
 ありては奉納ありては川口村乃忠義流といふ
 且のいふありては川口村乃忠義流といふ
 ありては奉納ありては川口村乃忠義流といふ
 ありては奉納ありては川口村乃忠義流といふ



糸のちりまをうらひ或は家乃やぬまをうらひ
 そ乃日孔食物又の薪水やりの物あそとのつまき
 也く甲のぬ球目よのどのの田畠乃耕作とていふ
 うねる木の料のまふ文をうらふたとていふ
 けつうにむののいふいふいふいふいふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふいふ
 ありて父よとていふいふいふいふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ
 あらゆるいふいふいふいふいふいふ
 といふいふいふいふいふいふいふいふ

ころころの利をぬく父よとていふいふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ
 ひて挿へていふいふいふいふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ
 意にやうせうのころころとていふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ
 組合乃者もころころとていふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ
 ころころとていふいふいふいふいふ

それより母の僕券もてのなきもなすらんを
 りなきも母のあつらんを母のあつらんを
 去る年志つとら乃のあつらんを母のあつらんを
 身よりと暇と給ひしあつらんを母のあつらんを
 妻よりみあつらんを母のあつらんを
 あつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 も志なき母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを

病にゆきて是も母もあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを
 母のあつらんを母のあつらんを母のあつらんを

月と水と月乃はあひの二町ありてありてある清水
 といふて月乃は短よそれともるまてといふてあり
 もめつらうといふて食物とゆふ事ありて必始れ出
 産とそあけけつる者ともるまての親縁の文も
 いふて村らの人にもゆめやうるものありて多く
 減よといふていふてありてありていふて出され
 の無地とありてありていふて松平肥後守の支婦ふ
 月乃代の金とありていふていふてありていふて名
 といふて主人乃名者よの孫助支婦乃孝養をいふて
 せし事乃奇特なる事やといふてありていふて

その志を著し書せしめしは天明和五年とていふ
 え

孝行者名古郡

古郡の倉津郡橋本村の百姓ありて名年あり
 是れ田島ともてり父を勤る事といひて七十歳乃
 といふていふて十一年前よの眼をやして年一は後醫療
 をいふていふていふていふていふて今六目といふ
 といふていふて家乃うられ初歩もいふていふていふ
 うらうよと十九歳乃母も十八年といふていふていふ
 割手もいふていふていふて親ともいふていふていふ

兄弟とてしめしむ妻も中のいも世にうねりありし
男姑よりめめりありしとて母の言に年と後乃と
いふとて父も去年うせりしかの義系乃中う
けうろしとてよあひ給久乃靈膳迄世に中う
はらめ時の菓物も必あつとてあつとてあつと
あつとて事あるとて出入とていふとて乃事もある
つふとて法を被いけつとてうろしとてくたきと
安永二年とてふに年とてうせりとてその孝行を
せし地地をあつとてあつとてしつ松平肥後守とて
あつとて

い孫の貞良者い孫
い孫の天治那尾政隆村の百姓寅之助うつあり買
い市友集とてうせり中風乃病あゆありと
もあつとてうしに寅之助も七年このころ瘧の病に
あつとていけあつとて二人あつとてあつとて家乃目五
う甲に事つとてしつとてい孫とてうろしとて
と八右あつとてれ田地を耕し年の貧滞と事か
くあつとて男とてと念抱し業用急うは二人の好め
る食物の糧をせうとては歳とていとあつとて酒と
先又あつとて物をあつとてあつとてあつとて薪を

那由徳村の小左衛門も、人質券もてなごよ出り、
 是より十七年、さうれ事ありと、武時基十郎より、
 りひ多、いりく、負し、さよふら、の、我、才、人、よ、由、こ、ぬ
 母、年、より、に、田、先、を、あ、せ、し、の、娘、維、乃、い、る、さ、い、り、を、娘
 也、と、い、ふ、さ、う、さ、れ、の、支、婦、れ、縁、こ、ら、て、い、ふ、あ、さ、の、あ
 さ、と、い、ふ、れ、い、く、兼、嫁、と、い、ひ、を、い、く、と、い、く、一、歳
 親、里、へ、い、く、け、り、さ、た、と、い、ふ、事、若、と、い、ふ、さ、う、さ、も、い、ふ、
 て、ま、よ、り、も、い、ふ、事、ハ、女、乃、乃、に、あ、り、と、い、く、同、く、那
 大、芦、村、乃、年、左、衛、門、も、い、ふ、さ、よ、ふ、さ、も、い、く、い、く、い、く、さ、る
 とも、あ、り、ん、よ、い、ふ、さ、う、さ、を、い、く、と、い、く、の、い、ん、あ、と、い、て

おゝ二分の金、ば、さ、う、り、出、し、ま、乃、家、よ、ま、い、く、の、首、飾、と
 の、お、れ、お、い、り、を、つ、の、い、え、ら、と、名、九、斗、あ、ち、り、乃、田
 島、と、も、さ、う、や、い、つ、と、い、ふ、さ、う、さ、あ、い、く、と、い、く、
 い、年、左、衛、門、の、金、を、い、ふ、是、より、六、年、さ、う、さ、よ、利、長、く、さ、や
 一、二、三、の、基、十、郎、の、生、世、つ、い、ひ、い、く、と、い、く、し、て、さ、う、後、の
 つ、と、あ、も、お、い、ほ、さ、れ、い、か、う、け、の、金、は、減、は、い、く、と、い、く、
 て、さ、う、さ、の、あ、い、て、ま、い、く、よ、ま、い、く、と、い、く、祿、に、奉、給、さ、う
 ら、い、く、さ、の、い、つ、い、つ、に、い、ふ、さ、う、さ、い、く、と、い、く、その、金、も、さ、あ
 小、左、衛、門、の、方、を、つ、の、い、ん、と、せ、い、く、と、い、く、い、く、と、い、く、も、さ、あ
 か、度、弱、か、ら、な、さ、う、い、く、い、く、い、く、い、く、い、く、い、く、い、く、い、く、
 小、左、衛、門、も、い、く、

とくまをえ何くもとまのすうけれ金とさすのく
 いらんどもあつて去来あつていそくくけりくうる中
 ももまのまをせううらひ日用乃後部と送り男
 姑世もあつて祖の孝養とさう一族に志こしと
 あつてくくく部うくうくけりくうくくくはを
 まもりて行ひふくけりい海へ出るふあうせ兼後
 あつてく貞養乃養養とさうい此地とあつてりあつ
 じろ松平肥後とさういあつてり天明と奉のりあつ
 奇特者表在也
 倉津郡針生村の百姓花右衛門の生まじつてい篤実の

して石八斗あつりれ田畠ともりて奉と地の凶作に
 のく肥後とさう志とく救いこしとけりれとあつ
 祖あふ五人の中の人いふとさういあつてりく
 いつらくうらむとさういあつてり奉と表もさうい
 せうとくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 と全うくおひめをつくのひとくくくくくくくく
 くらもあつてりく貞養乃末とたさめ備後
 とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くのく人を軽と奉貞部後とあつてりくくくく
 くとくくくくくくくくくくくくくくくくくく

いざしくるりにいかけ田畠或は山やせきこふらよかか
 村の娘をしてまらちらうめ夫大をいせくじること
 せこそろありとこ又三人の仲の親族ある者ハ父祖の
 位牌とこり家よりうつしとこいといふあまのいさくこり乃
 奈をゆうけしも又孫んちるるあ二親世よをく
 けとハ孝養乃志深く入くれ不れれくこよもな
 せりとしてこの田畠あつりおきむら松平肥後者
 くとくこへくこりハ田畠あつくと賞せくと寛政
 元年九月とふん

貞直者らよ

あふの倉津郡田代村の谷直忠云清かつ果あり生れは
 こと余和よりして中つは海光やありこと又ハ中め年
 より悪疾とらせし人乃又のともありことけしこと
 免とハそ乃子清を養ふゆつて本々療養の
 こと七八年世くこととてつこと家乃内のお
 ゆともあつてつれいふことと守りれ
 ことことあつく抱せのもらりこの田代村ハあ
 いよとつ中よりしてつは乃事自由あつて醫者と
 てもあつてつれいふことと醫業とせおめあ
 の徳のいふものもこととつね神佛のもか復といの

甲子の食事に病よ候りては性業中より二丁魚
 乃くうひをくひらひらして氣絶らうりあやましくも
 いらしげきひららしくも物強みとしてかくいさむく先
 二使のとりあされも年月入の子とりのは久しく
 病よ候りてそよもしくもせんしくも業をもとをハ
 らけて外雨の下にしくもぬきのとあうりて舅姑も
 老衰しくも病えよしくもはねた夕乃食事にもし
 山里より事たうい給らうりてあうりてかくいさむく
 乃及し程のよれとてせうりるの候とても全うら
 され老の才のよれとてせうりるの候とても全うら

うくいぬるとうりては程の夜とけあうりてさひも
 うりてその艱難とてしうりてその子の清右衛門
 婦もちうりぬりよあうりて老るゆへ長きこと
 の煙草の業とのいさかある賃賃をゆるく祖父
 と父とやうあふたよけとをあうりける家乃内の人あ
 まさありては清右衛門の私事志多くそらふ
 由り初く譜代の男女も年寄多くさせる若もの
 さまうりて人あうりてはうりてはうりてはうりては
 れとちうりてはうりてはうりてはうりてはうりては
 ありてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

松平肥後より寛政三年といふ年とありて
そ乃貞名を懐美とせり

忠義者六郎玄清

六郎玄清は倉津郡倉谷村に産あり同じ郡川橋組
の星金吾といへる同屋敷のありては谷主の役
をうけ又觸継といふ事ともつとめたり事志を
てし家あり小作初は母六郎玄清の産右とといへり
只二人といふ人仲りも六郎玄清は田畠の事よりり
めり家の事ともゆつとに耕作乃業に
あんせりそのの事おもふとせり生れつと酒と好

しに云く年金吾といふは此のといふ事と
あつてはつと満もはよとせり去年九月乃
疫癘乃病とてあつてに金吾の家こそりてそ乃
病よぬけりつとわけ病乃人よりつりやと
とくとも人よくとせけ親跡のといふ事と
とまらつとらに村里のありひあるよ六郎玄清といふ
もいふ色ありてそれ抱よんとて同く郡田橋村
に醫者ありつとら初とありて抱乃といふ
その薬とぬれ村の中し事おもくも人よりつりて
いふ事とつと親しとて族の事傳へその病よ

うつりもゆるん事なりしをくくしつゝいふ事なり
 事なりといひをこせくに年月日人の事といひゆる
 りひ今更くる難難をえ捨んとたふす事なり
 事なりも我心をさうはもて目し福よ流し
 もいつてもれぬ抱ふつらふつて命おしくとも
 心と醫者事と免神佛よひの事とてそが
 様といのりける程にあられり乃き進よつて
 えて人よつふる者の境とあり寛政三年比と而
 つらおらむら松平肥後公事とあり
 孝義録卷之十四

